



子どもを持つがんの患者を支える ～CLIMB®親グループ ファシリテーター 養成講座の実施報告～

NPO法人 Hope Tree

大沢 かおり（国家公務員共済組合連合会 東京共済病院）

赤 川 祐 子（秋田大学大学院医学系研究科 看護学講座）

小林真理子（聖心女子大学 心理学科）

井 上 実 穂（独立行政法人国立病院機構四国がんセンター）



The Japanese Breast Cancer Society
since 1992



筆頭演者の利益相反状態の開示

すべての項目に該当なし

背景

- NPO法人Hope Treeでは、2010年よりがんの親をもつ子どもへのサポートグループCLIMB®を実施している。
- 2019年、**親と保護者のための心理社会的グループプログラム**（以下親プログラム）が米国で開発。
- 子どもが CLIMB ®参加中、親は本プログラムに参加し、子どもを支える方法を習得する。



CLIMB®プログラムとは？

(Children's Lives Include Moments of Bravery)

全6回のクロースドグループ形式

CLIMB®の目標

1. 自分にとっての「がんの経験」を他の子どもと共有し、仲間の話を聞くことで、つながりを感じ孤立感をやわらげる。
2. 医療機器の実演や医療者との対話を通じて、がんや治療への不安を軽減し、親のがんについて理解し話し合えるよう支援。
3. 悲しみやささまざまな感情は自然なものであることを理解しする。自分の気持ちを表現し対処する力を育てる。
4. 自分の強みを見つけ、不安を自然な感情として受け止められるよう支援。支えとなってくれる人の存在も学ぶ。
5. 怒りを適切に表現し、コントロールする方法をエクササイズとアクティビティを通じて学ぶ。
6. 親とのコミュニケーションを促し、気持ちを伝える経験を通じて信頼関係を深める。

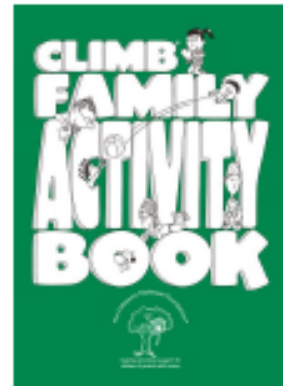
CLIMB®のスケジュール

対象は
がんの親をもつ
学童期の子ども

	テーマ	感情	活動
1	親ががんになった体験を他の子どもたちと共有することで孤立感を減らす	楽しい	わたしについて
2	がんとその治療についての知識を深める	とまどい	がんってなあに？
3	悲しみの感情が自然なものであることを理解できるよう支援	悲しみ	お面作り
4	自分の強みを見つけ、不安を自然な感情として受け入れられるよう支援	不安	強さの箱
5	怒りを適切に表現し、対処できるよう支援	怒り	怒りバイバイ さいころ
6	がんをもつ親とのコミュニケーションを促進	気持ちを伝える	大切な人に気持ちを伝える カード作り



CLIMB親プログラムとは？



- 2019年米国で開発され、日本に導入。
- 目的：親ががんであることに関連する悩みに対し、子どもが向き合うのを親が手助けできるようにすること

	プログラム内容 A:アクティビティ
1	親の病気に対する子どもの適応について学ぶ A：人生の木
2	ストレスマネジメントを学ぶ A：コラージュ
3	効果的なコミュニケーションを学ぶ A：ゲーム
4	回復力をつける（金継ぎアクティビティ） A：セルフケア、マインドフルネス
5	子どもの行動管理 A: 子どもとの特別な時間
6	振り返りとディスカッション A: 子どもへのカード、スクラップブック作成



A: コラージュ

Hope Tree主催CLIMB®親プログラムに参加した親からの声

同じ境遇にある子供たちと、サポートしてくださるスタッフの方々との関わりを通して、家庭だけでは足りない部分に寄り添っていただき、娘自身が心を解放できたのではないかと感じました

今までは（体調の悪い時は特に）癌や治療によってできていた距離が縮まったように思います。気分的に楽になりました

子供には安心感を、親は新しい視点を授けてくださったと思っています

目的

CLIMB親プログラムのファシリテーター養成講座の**実施報告**と、受講者アンケートにより**今後の在り方**を考察する。

方法

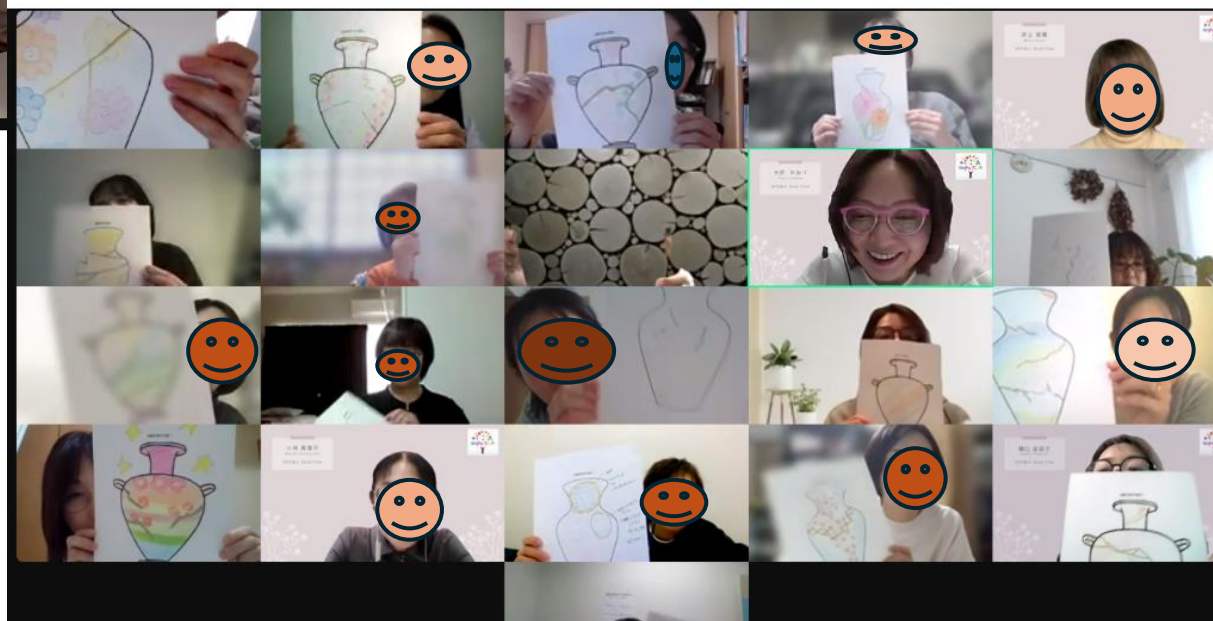
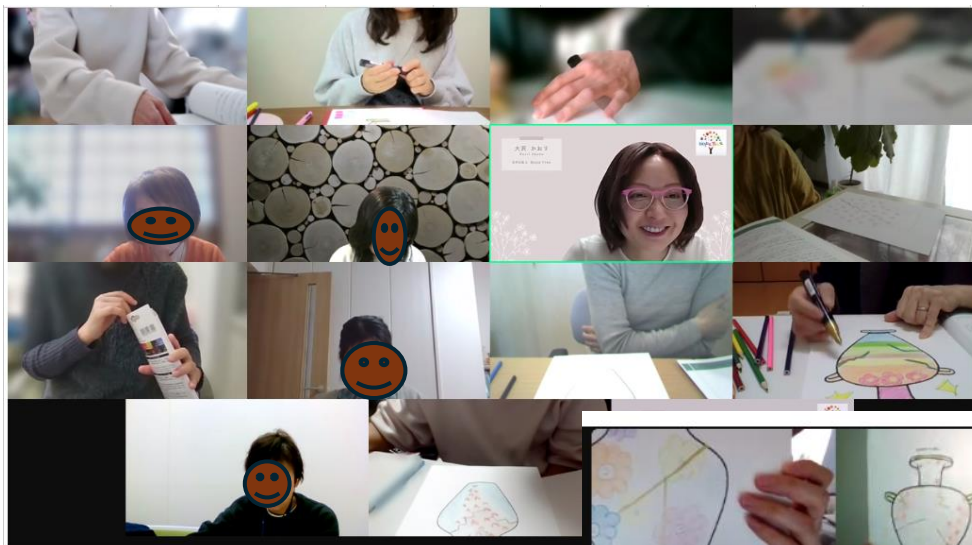
- 対象：CLIMB ®ファシリテーターの資格を持つ医療職
- オンライン会議システムでCLIMB®親グループファシリテーター養成講座を開催。

養成講座は7時間で6セッションを学び、体験する。

- 養成講座終了後、Webアンケートを実施。

内容は、各セッションの理解度、がんになった親とその子どもにどの程度役に立つか、開催可能性等など

各自がアクティビティに取り組んでいる時は手元を映し、その後皆でシェア



結果

- 養成講座参加者：医療者18名
- アンケート回答者：13名（回収率：72.2%）
看護師：11名、医療ソーシャルワーカー：2名

- 養成講座の満足度 とてもよかった **100%**

自由記載

「プログラム構成の意図や内容が**網羅的に理解**できた」

「講義だけでなく**アクティビティに取り組めてよかった**」

「参加すると**親が自分の人生を振り返り、**

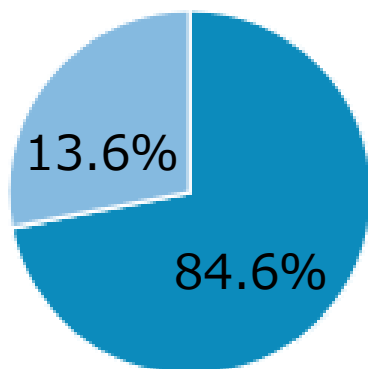
大切なものを思い起こすプログラムになっていると実感した」

「**体系化されたプログラム**でマニュアルもあるため、

開催できそうだと思えた」

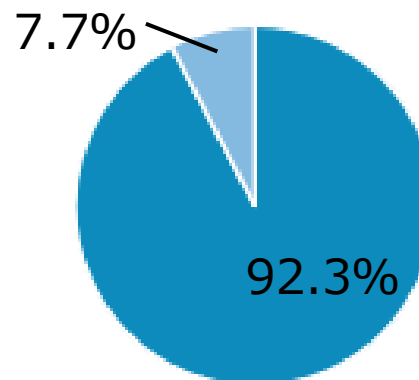
結果

・各セッションの理解



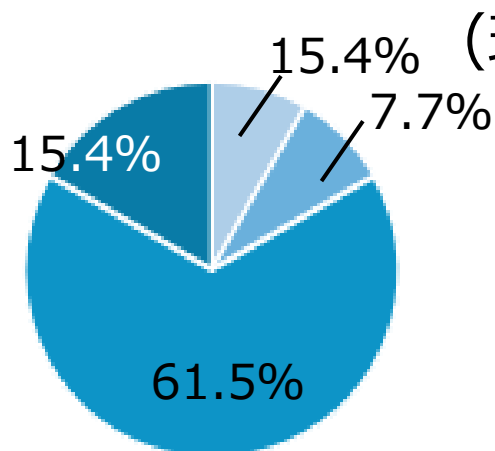
■ とても理解できた ■ まあまあ理解できた

・子ども、参加者自身にとって



■ とても役に立つ ■ まあまあ役に立つ

・参加者の施設での開催可能性



■ 開催可能 ■ まあまあ開催可能
■ 可能性はあるが分からない ■ 難しい

- （理由）
- ・ 病院の理解を得ること
- ・ 運営スタッフの確保
- ・ 資金面に困難を感じる

考察

- 患者自身の人生を振り返り大切なものを再確認する過程が子どもへの支援にもつながる実感
→プログラムの本質的な価値を裏付ける
- プログラム展開の課題には、組織の理解や資金面の困難が挙げられた。
→継続的な実施を妨げる要因にもなり得る
今後も養成講座を通して目的や意義の周知を継続する必要あり



結論

- 本養成講座は、参加者に**高い満足度と実践的な知識**を提供した
- 今後も養成講座を通して**目的や意義の周知を継続**
- 親プログラムの実践においては、**効果やエビデンスの証明**にも取り組む。

